

統計スポット情報

NO. 163

21.12.25

福井県総合政策部政策統計課

— 国勢調査特集 —

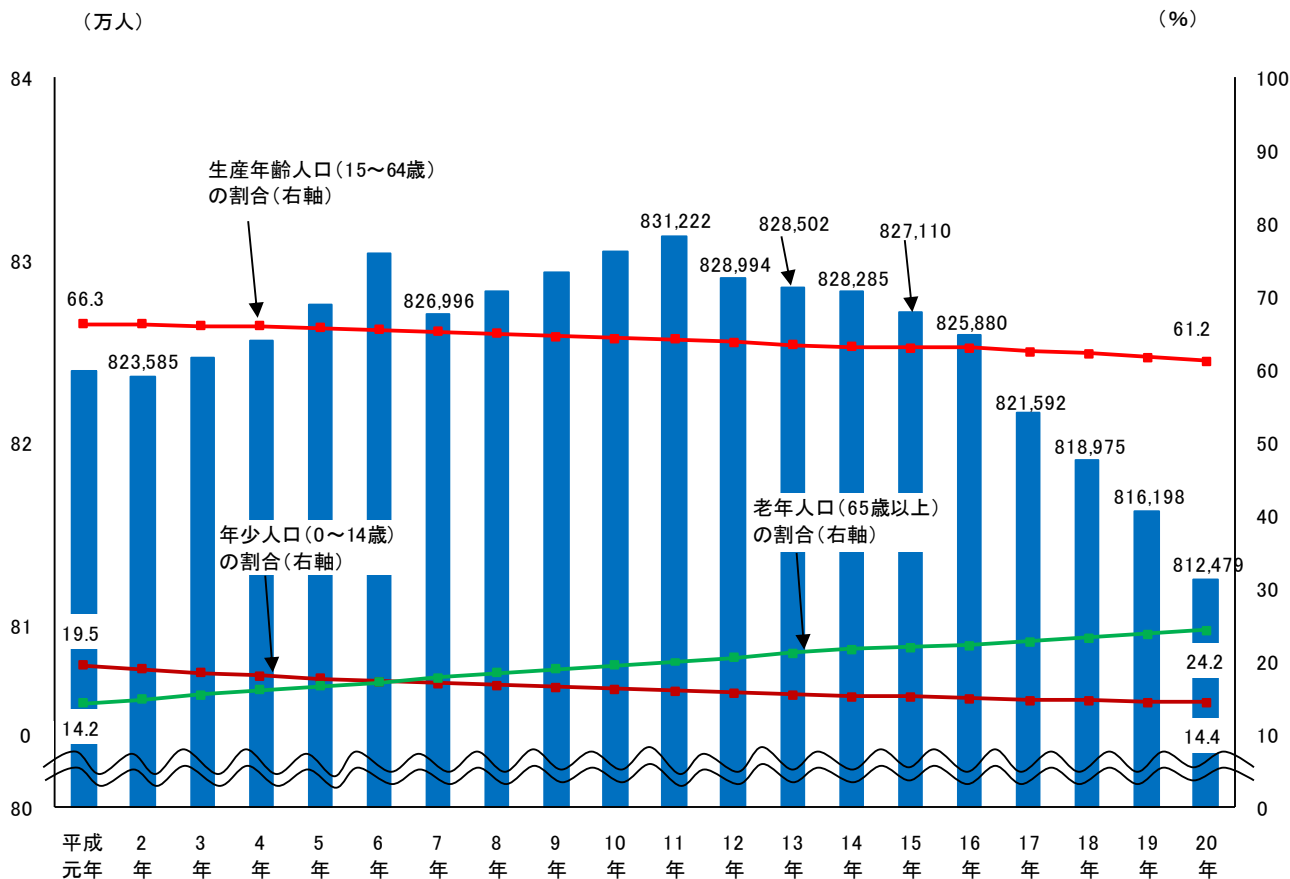
平成22年10月1日に、5年に一度の国勢調査が実施されます。そこで今回のスポットは「国勢調査」に焦点を当ててみたいと思います。

【福井県の人口】

国勢調査といえば、すぐに思い浮かぶのは人口です。ここでは、福井県の人口について少し詳しく見てみましょう。なお、国勢調査は5年ごとに実施されるため、国勢調査が実施される年以外の人口は、国勢調査の人口を基にその後の出生、死亡、転入、転出を加減した推計人口を掲載しています。

福井県の人口は、平成11年の831,222人をピークに、その後減少しています。特に最近1年間に約3千人ずつ減っています。また、人口を年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)、老年人口(65歳以上)に分けると、老年人口が、平成7年に初めて年少人口を上回りました。

※国勢調査年である平成2年、7年、12年、17年は国勢調査の結果を、その他の年は推計人口を採用している。



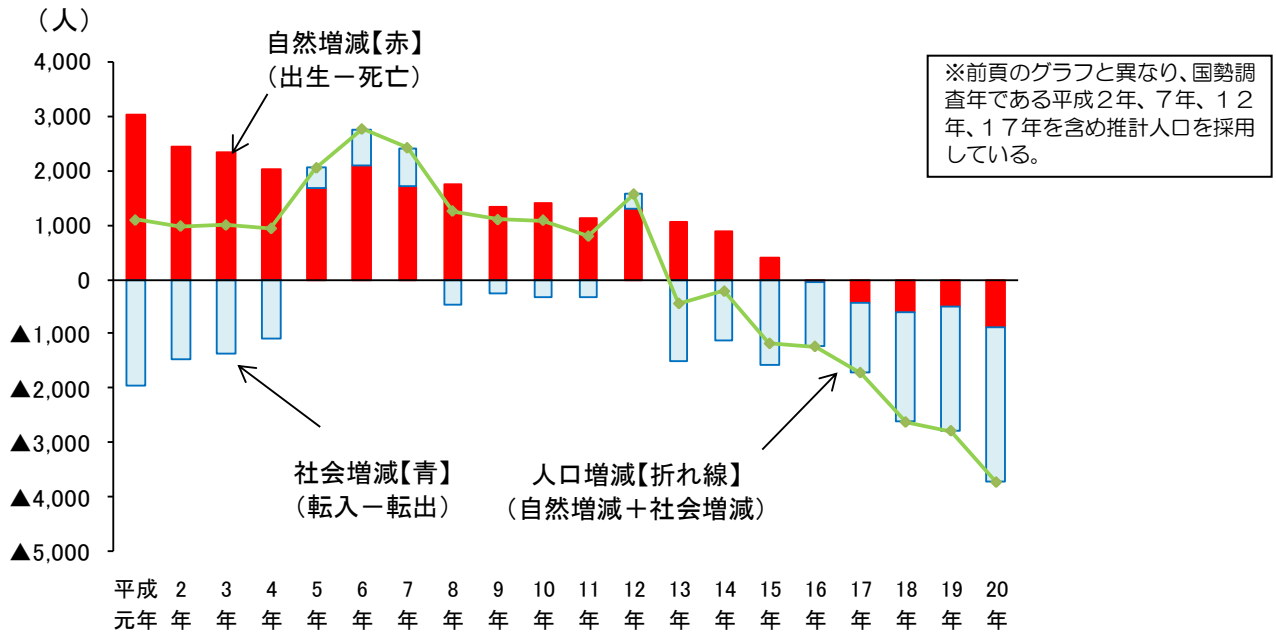
【出典】福井県政策統計課「福井県の推計人口(年報)平成20年」

●自然増減と社会増減

人口が増減する要因は、出生、死亡、転入、転出の4つです。出生、死亡で人口が増減することを自然増減といい、転入（他県から福井県へ引っ越すこと）、転出（福井県から他県へ引っ越すこと）で人口が増減することを社会増減といいます。

下のグラフを見ると、自然増減は平成16年から平成20年まで5年連続でマイナスとなっており、社会増減は平成13年から平成20年まで8年連続でマイナスとなっています。

近年の人口の減少には、自然増減よりも、社会増減による減少分が大きく影響していることがわかります。

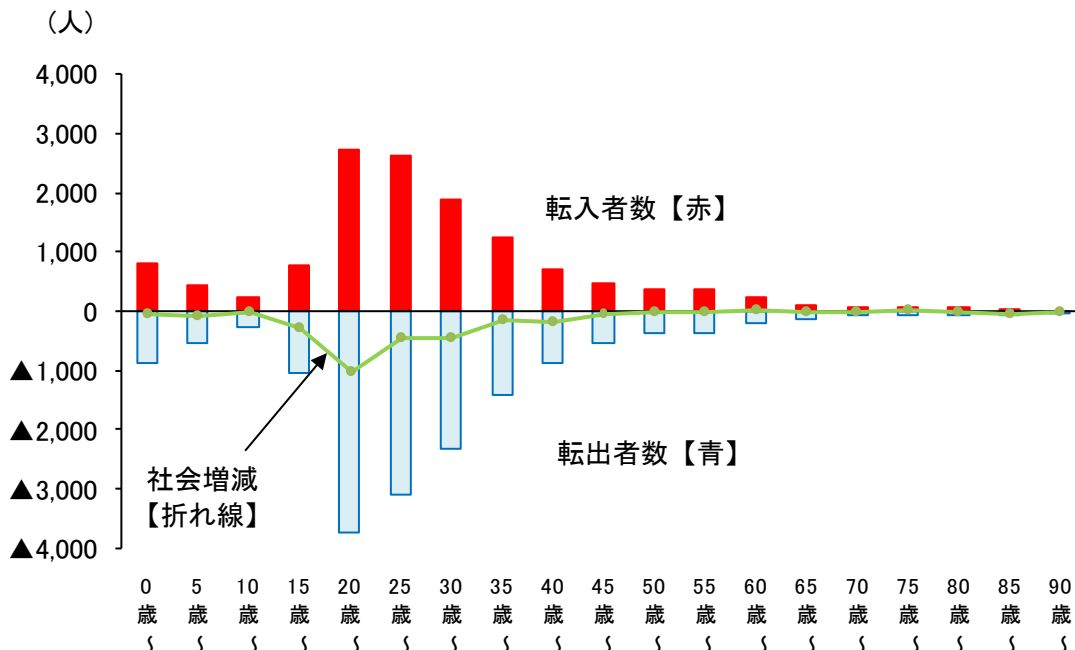


【出典】福井県政策統計課「福井県の推計人口（年報）平成20年」

●年齢別の社会増減（平成20年）

では、社会増減の内容を年齢別に見てみましょう。

社会増減は、ほとんどの年齢でマイナスになっており、社会増減のマイナス幅は、20～24歳で最も大きくなっています。



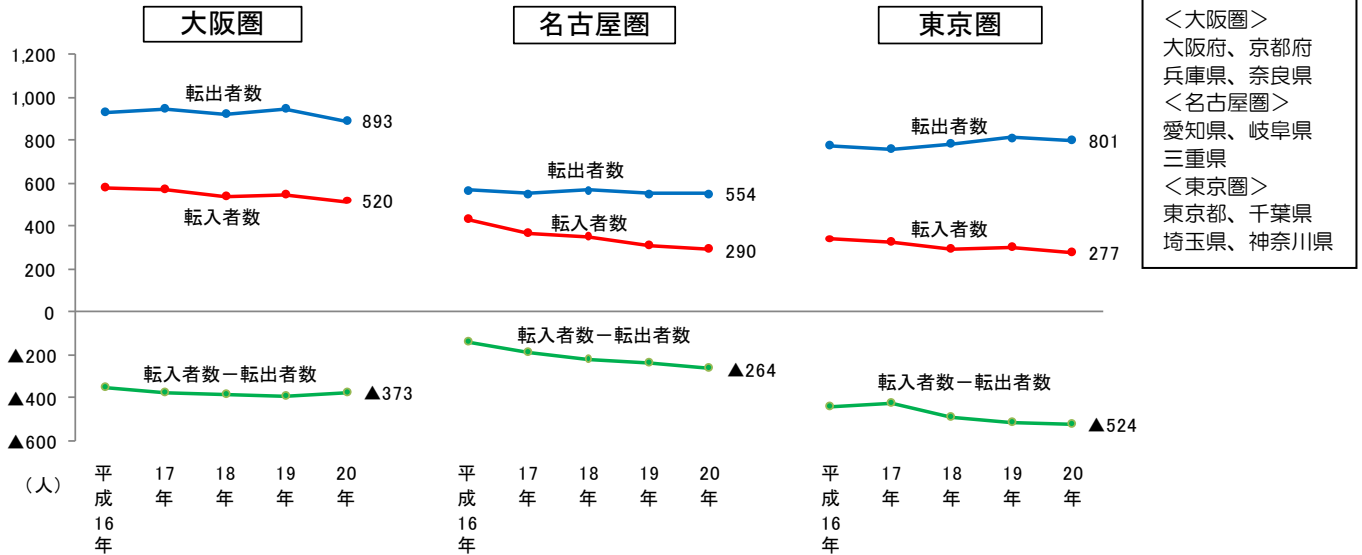
【出典】福井県政策統計課「福井県の推計人口（年報）平成20年」

● 20～24歳の都市圏別転入・転出状況

20～24歳の転入者数および転出者数を3大都市圏別に見ると、平成20年の転入者数は、大阪圏が520人と最も多く、次いで名古屋圏（290人）、東京圏（277人）となっています。

また、同年の転出者数は、大阪圏が893人と最も多く、次いで東京圏（801人）、名古屋圏（554人）となっています。

平成20年の転入者数から転出者数を差し引いた数字は、東京圏がマイナス524人となっており、大阪圏、名古屋圏と比べると、マイナス幅が大きくなっています。



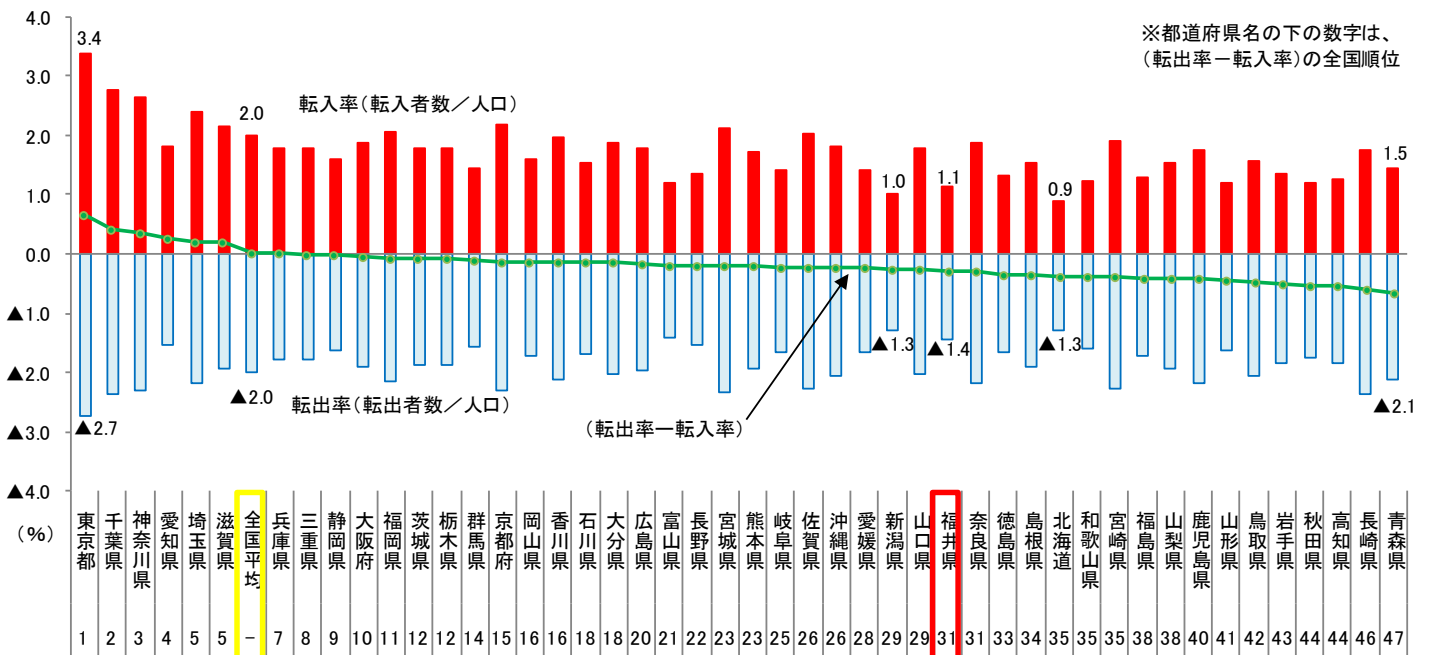
【出典】福井県政策統計課「福井県の推計人口（年報）」

● 転入率、転出率の全国比較（平成20年）

次に、福井県の転入者数、転出者数の割合がどの程度であるかを見てみましょう。

福井県の転入率（転入者数／人口）は1.1%で全国45位、転出率（転出者数／人口）は1.4%で全国44位となっています。このことから、福井県は社会増減が大きいとはいっても、全国的に見ると小さい県であるといえます。

なお、転入率、転出率とも最も大きいのは東京都で、最も小さいのは北海道（転出については新潟県と同順位）となっています。



【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告（平成20年）」

【国勢調査でしかわからない、貴重なデータ】

来年が国勢調査年であることにちなんで、国勢調査で得られるデータの一部を御紹介します。

●夜間人口（常住地による人口）

その市町村にふだん住んでいる人口のことで、国勢調査で得られる最も基本的なデータです。一般的に人口というとこの夜間人口のことを言い、常住地による人口とも呼ばれます。夜間人口は、衆議院議員選挙の選挙区の確定、地方公共団体の議員定数、国から地方公共団体に交付される地方交付税の算定基準に使われるなど、ふだんはあまり目立ちませんが、政治的平等および民主主義の基盤の確保、地方自治の確立のための重要なデータとなっています。

国勢調査の調査票には、ふだん通勤・通学している市町村を記入する項目があります。この項目により、人々の日々の往復移動の実態が明らかになり、市町村間の人の流れや規模、市町村の昼間人口などを把握することができます。通常、統計というと、静的データを把握することが多いのですが、この項目は人の動きをダイナミックに捉えるという点に特徴があります。

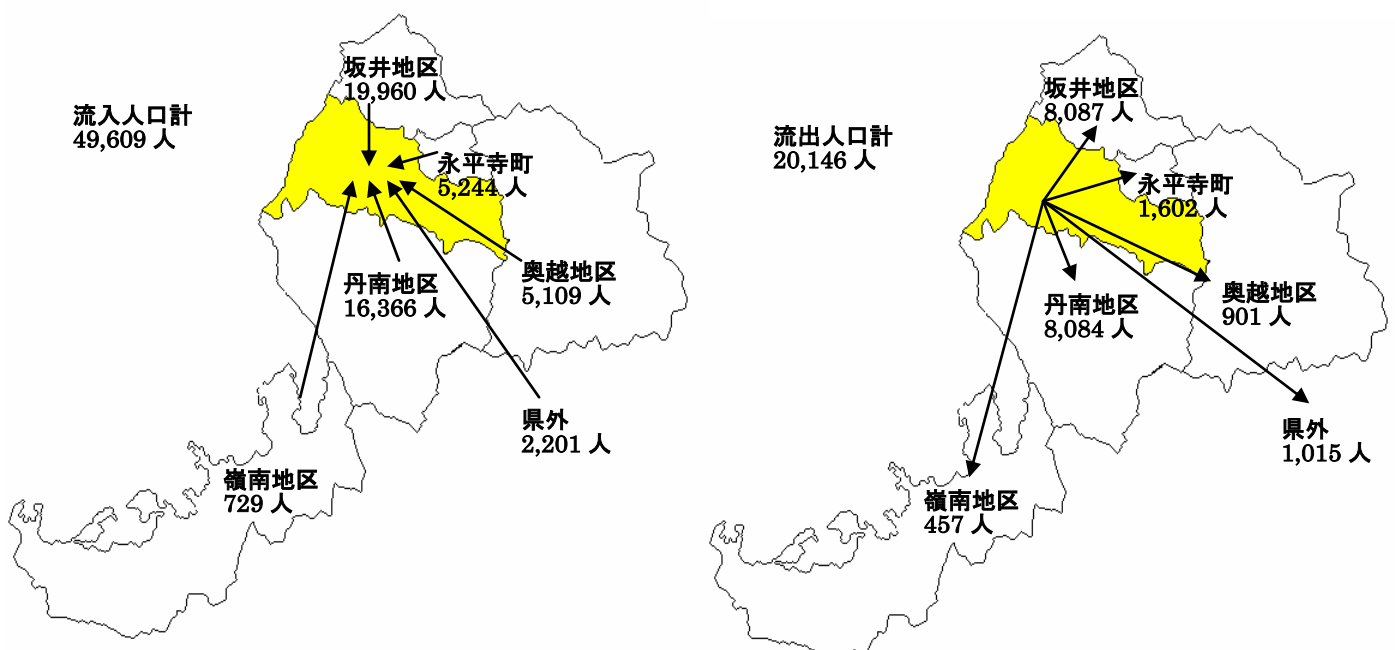
それでは次に、この調査項目により把握できる「流入・流出口」、「昼間人口」についてお話しします。

●流入・流出口

その市町村に通勤・通学で他市町村から来る人の数を「流入人口」、逆にその市町村に住んでいて、通勤・通学で他市町村に行く人の数を「流出口」と言います。単に来る人、出て行く人の数がわかるだけでなく、「どこから来たのか」、「どこへ行くのか」が把握できるため、市町村の特色の一端を表す貴重なデータとなります。

下の図は、福井市の流入・流出口の流れを表したものです。流入・流出口は、交通整備、都市計画、民間企業の店舗立地計画等に利用されています。

福井市の流入・流出口



※「流入人口」、「流出口」には、3か月以内の短期就労のための滞在者を含んでいます。

【出典】総務省「平成17年国勢調査」

県内各市町通勤・通学状況（15歳未満含む。）

	常 住 地									
	福井市	敦賀市	小浜市	大野市	勝山市	鯖江市	あわら市	越前市	坂井市	永平寺町
福井市	136,505	579	45	2,873	2,236	7,846	3,503	5,449	16,457	5,244
敦賀市	394	35,498	341	20	11	190	21	320	77	15
小浜市	26	179	14,793	-	-	8	2	11	12	3
大野市	609	3	2	16,035	1,201	29	8	28	104	80
勝山市	292	3	-	1,341	10,596	14	17	17	114	266
鯖江市	4,296	116	4	84	64	22,737	69	5,071	406	114
あわら市	1,448	6	-	35	63	100	10,041	41	3,739	151
越前市	2,957	280	6	95	49	5,901	75	36,611	355	116
坂井市	6,639	21	3	198	321	327	3,725	195	32,842	813
永平寺町	1,602	17	1	187	495	151	109	111	1,205	5,821
池田町	75	1	-	10	-	53	1	121	6	3
南越前町	60	34	-	1	4	112	2	594	9	2
越前町	696	15	-	5	5	838	10	610	68	8
美浜町	19	1,339	120	1	-	6	2	8	3	-
高浜町	4	67	446	-	-	1	-	2	3	1
おおい町	4	124	728	-	-	1	-	-	2	-
若狭町	10	459	954	1	2	3	3	6	6	-
県外	1,015	672	285	48	129	133	630	234	814	111
流出入口	20,146	3,915	2,935	4,899	4,580	15,713	8,177	12,818	23,380	6,927

	常 住 地									流入人口
	池田町	南越前町	越前町	美浜町	高浜町	おおい町	若狭町	県外		
福井市	186	601	2,284	47	7	10	41	2,201	49,609	
敦賀市	4	189	49	1,636	21	53	893	914	5,148	
小浜市	-	3	1	117	672	1,089	1,569	385	4,077	
大野市	4	6	7	-	-	1	-	77	2,159	
勝山市	1	4	2	-	-	-	-	70	2,141	
鯖江市	123	527	1,941	6	-	1	3	111	12,936	
あわら市	-	4	18	-	1	-	-	657	6,263	
越前市	348	2,214	1,947	15	1	-	11	208	14,578	
坂井市	4	21	101	2	1	-	1	420	12,792	
永平寺町	1	8	35	5	-	-	2	145	4,074	
池田町	1,100	4	3	-	-	-	-	5	282	
南越前町	4	3,248	34	1	-	-	1	23	881	
越前町	5	100	7,059	1	-	-	2	41	2,404	
美浜町	-	5	-	3,541	14	18	365	114	2,014	
高浜町	-	1	-	20	4,238	334	57	765	1,701	
おおい町	-	1	-	33	424	3,411	116	458	1,891	
若狭町	-	4	1	506	45	79	5,753	203	2,282	
県外	9	60	50	44	899	149	163			
流出入口	689	3,752	6,473	2,433	2,085	1,734	3,224			

【出典】総務省「平成17年国勢調査」

● 昼間人口（従業地・通学地による人口）

夜間人口の反対で、その市町村に昼間いる人口です。従業地・通学地による人口とも言います。昼間人口は「夜間人口+流入人口-流出人口」で算出されます。市町村の人口は、通勤・通学で昼間と夜間で違っているのが普通です。上・下水道の整備、防災計画などには、夜間人口だけでなく、昼間人口を加味する必要があり、そのためのデータとして利用されています。

また、「昼間人口÷夜間人口×100」で算出したものを「昼夜間人口比率」と言い、人々のライフスタイルを推測する手掛かりとなる指標として、また、都道府県・市町村の特徴を表す指標としても利用されています。

この昼夜間人口比率が県内で最も高いのは福井市の111.0ですが、全国の市区町村で最も高いのは東京都の千代田区で、夜間人口41,778人に対し昼間人口が853,382人と、昼夜間人口比率は実に2042.7になります。すごいですね。

県内市町別昼夜間人口および昼夜間人口比率

市 町 名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率	順 位	市 町 名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率	順 位
福 井 市	297,405	267,942	111.0	1	永平寺町	17,848	20,701	86.2	15
敦 賀 市	69,500	68,267	101.8	4	池 田 町	2,998	3,405	88.0	14
小 浜 市	33,322	32,180	103.5	2	南越前町	9,403	12,274	76.6	17
大 野 市	35,103	37,843	92.8	11	越 前 町	19,912	23,981	83.0	16
勝 山 市	24,520	26,959	91.0	12	美 浜 町	10,604	11,023	96.2	7
鯖 江 市	64,054	66,831	95.8	8	高 浜 町	11,244	11,628	96.7	6
あ わ ら 市	29,167	31,081	93.8	10	お お い 町	9,374	9,217	101.7	5
越 前 市	89,502	87,742	102.0	3	若 狭 町	15,838	16,780	94.4	9
坂 井 市	81,662	92,250	88.5	13					

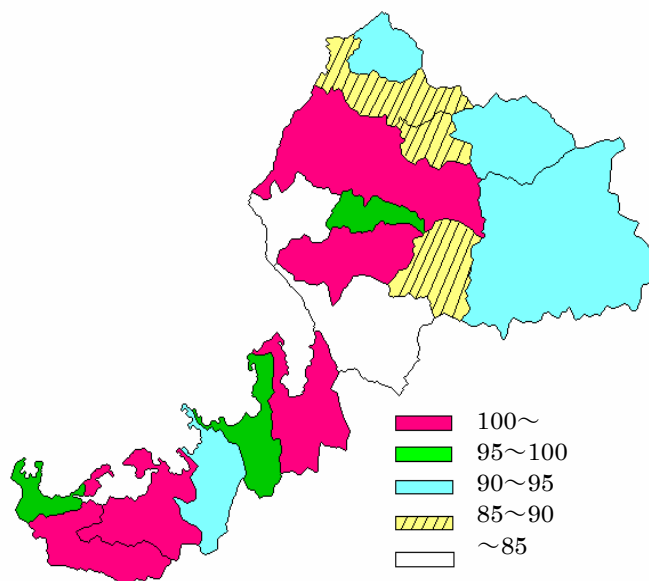
【出典】総務省「平成17年国勢調査」

昼夜間人口比率の全国市区町村順位（上下 10 位）
（平成 20 年）

順位	市町名	昼間人口	夜間人口	昼夜間人口比率
1	東京都千代田区	853,382	41,778	2,042.7
2	大阪市中央区	508,343	66,818	760.8
3	東京都中央区	647,733	98,399	658.3
4	東京都港区	908,940	185,861	489.0
5	名古屋市中区	324,987	70,738	459.4
6	大阪市北区	418,061	100,385	416.5
7	愛知県飛島村	13,711	4,369	313.8
8	東京都渋谷区	542,803	203,334	267.0
9	東京都新宿区	770,094	305,716	251.9
10	神戸市中央区	282,275	116,591	242.1
1	大阪府豊能町	15,244	23,928	63.7
2	千葉県栄町	15,844	24,377	65.0
3	宮城県七ヶ浜町	13,750	21,068	65.3
4	茨城県利根町	11,796	18,024	65.4
5	千葉県本埜村	5,672	8,390	67.6
6	奈良県平群町	13,953	20,286	68.8
7	埼玉県鷲宮町	23,575	34,062	69.2
8	青森県階上町	10,748	15,356	70.0
9	川崎市宮前区	145,647	207,895	70.1
10	群馬県富士見村	15,701	22,320	70.3

【出典】総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた」

県内市町別昼夜間人口



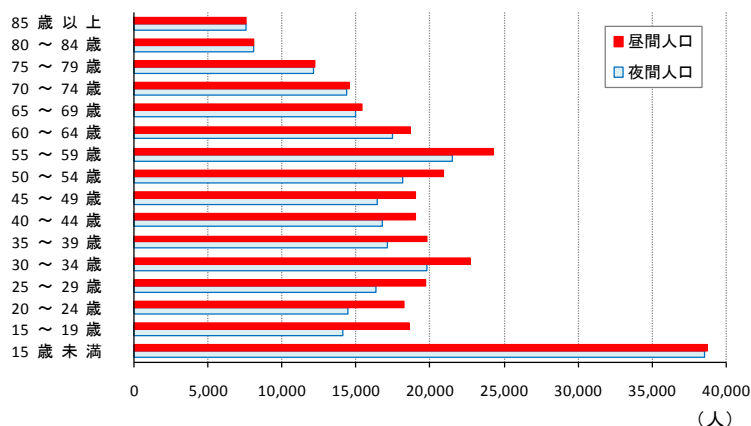
【出典】総務省「平成 17 年国勢調査」

国勢調査には他にも「出生年月」や「職業」を記入する項目があり、これらの調査結果と昼間人口の調査結果を組み合わせることにより、昼間人口の年齢および職業構成の把握や夜間人口との構成比の比較などができます。

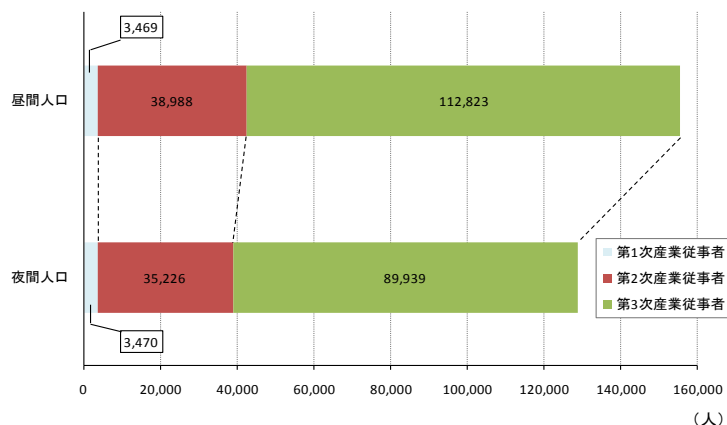
国勢調査は、調査対象となるものすべてを調べる統計調査（全数調査）なので、様々な組み合わせの集計ができます。例えば、「敦賀市から福井市に通勤・通学する人のうち、電車とオートバイの両方を使って通勤・通学する人は何人か？」といった、他の調査では調べようのない数字をはじき出すこともできます。調査対象の一部を調べる統計調査（標本調査）では、集計が細くなればなるほど誤差が大きくなり、有意なデータが得られません。

国勢調査は、社会の構成単位である「人」を対象とする基本的かつ重要な調査であるだけでなく、人や社会のいろいろな姿を様々な角度から映し出してくれる、万華鏡のようなおもしろい調査でもあるのです。

福井市の昼夜間人口別年齢構成



福井市の昼夜間人口別産業別従事者数



【出典】総務省「平成 17 年国勢調査」

【平成22年国勢調査の概要】

それでは、平成22年国勢調査の概要を御紹介します。



国勢調査マスコットキャラクター
「センサスくん」

●調査期日と調査の対象

平成22年10月1日午前零時現在

日本国内にふだん住んでいるすべての人（外国人含む）

●主な調査項目

男女の別、出生の年月、世帯主との続き柄、現住所での居住期間、5年前の居住地、在学・卒業等教育の状況、就業状態、従業地・通学地とその交通手段、世帯の種類、世帯員の数、住居の種類など20項目

*前回大規模調査（平成12年）に比べ、2項目（「家計の収入の種類」と「就業時間」）少なくなりました。

また、個人情報第三者に知られたくないという声や、日中不在がちなお宅が増えていること等を踏まえて、調査の方法が次のとおり変わります。

★調査票はすべて封入して提出していただきます。

記入された調査票は、すべて封をして提出していただくことになります。
調査員は開封しません。調査員による記入内容の確認は行いません。

★郵送提出もできます。

従来からの調査員回収方法に加え、調査票を郵送提出（市町役場あて）することもできます。調査員に提出できないときは、返信用封筒で郵送してください。

もちろん、従来どおり調査員に直接お渡しいただくこともできます。

また、東京都の一部モデル地域ではインターネット回答方式を導入します。

（福井県にはモデル地域がありませんので、インターネット回答はできません。）

★コールセンターを設置します。

お手元に調査票が届く頃（来年秋）には、世帯の皆様からの記載方法などのお尋ねに対応するために、国一括でコールセンターの設置を予定しています。

大正9年に第1回国勢調査が実施されて以来90年、国勢調査はこれからも社会の座標軸として大事な役割を果たします。来年9月、調査員が皆様のところへお伺いして、調査票をお渡しします。

御記入の上、御提出くださいますよう、よろしくお願いいたします。



平成22年10月1日